

NTTは持ち株会社を解体し、完全に資本を分割すべきだと思います。
公正競争の確保をするため、そしてNTTの独占・市場支配力の乱用を排除するにはそれはベストです。

NTTの参入妨害行為は目に余るものがあります。
特にDSL事業者に対する不当な料金の請求や期日の引き伸ばしなどで芽をつぶし、一方でISDNを大宣伝広告で売り出す。
自分たちの研究ミスで日本に張り巡らせたISDNの投資を消費者に押し付けるための行為にしか見えません。
ADSLとISDNを比較して、ISDNの利点などほとんどありません。
先日の雷では8000件以上の故障が生じる弱さの上に、スピードは遅く、料金は高額。ADSLなど新サービスをつぶすことで、NTTがISDNをすばらしいものとして売り込んでいる事に非常に腹がたちます。

去年の分割はこのようなNTTの市場支配力を強めてしまいました。
消費者に不利益をもたしている上に、日本のITは遅れる一方です。

現在すでにコムがDSL事業に参入することを決定し、ドコモなどの携帯電話の加入者数が一般電話加入者を超えるなどNTT内で競合が見られます。
トップ同士も足並みがそろわなくなっている点が多々見られます。
しかし現在の持ち株会社制度では、完全な競争など決して起きません。
資本関係があるからです。ですからこの資本関係を分断する必要があります。

またドコモは、そもそもNTTが経営戦略から分社した会社ではないはずです。
公正競争確保という点から政府によって分離させられたものでしょう。
何のために分社したのでしょうか？
今後はIMT-2000の展開で通話だけでなく、インターネット接続サービスとしても競合が進むのですから、独立はきわめて当然のように思えます。

資本分割により市場支配力を弱め、インフラの開放を法制化することでNTTの参入妨害を阻止し、東西会社、コムにそれぞれ相互参入を認める。
そしてコムとドコモ、東西会社を競合させます。
そして独占が崩れた時こそ、ユニバーサルサービスの資金を提供すべきだと思います。それは米国にならいINTTだけでなく新電電にも広く負担を求めるのが良いでしょう。

新技術、新サービス、新規参入者が、市場に迅速に入って来られるようにすることが重要です。アメリカの通信法改正後の市場を見れば明らかなように、競争あるところに、品質向上・価格低下があり、そして需要を喚起し

産業が発展します。そのためには是非NTTの完全な分割を実現して下さい。
政治的な圧力もかけてNTTは抵抗をしてくるでしょうが、負けないで下さい。
よろしくお願いします。